



戸田ゆうじ議会報告

淡路市議会議員 戸田ゆうじ 後援会発行

新しい 淡路市をつくる



2019 11月号

NO.5

9月定例議会より／聖隷淡路病院 分娩休止 ・ 暴力団事務所売却意向

「聖隷淡路病院、分娩休止」

平成 26 年に移転し、産婦人科を開設した当病院において、同年 7 月には市内で 27 年ぶりの出産が実現し、本年 7 月末までの分娩数は里帰り出産を含め 568 人に。

しかし、病院は本年(2019 年)12 月をもって分娩・妊婦検診中止を公表。

婦人科外来・婦人科検診は引き続き実施する。

聖隷淡路病院の設立経緯

平成 11 年 12 月

国立明石病院岩屋分院は廃止の予定であったが、旧淡路町により静岡県浜松市に本部のある社会福祉法人聖隷事業団に経営移譲し、聖隷淡路病院として開設。

改築工事費など旧厚生省が負担。(一般病床 102 床)

平成 26 年 4 月

淡路市の支援を得て夢舞台へ移転、新築開設する。(一般病床 152 床) 産婦人科開設

同 7 月 21 日、市内で 27 年ぶりの出産。

令和 1 年 7 月末現在：総分娩数 568 人

内訳	淡路市民の分娩数	348 人
	洲本市・南あわじ市民の分娩数	36 人
	島外者の分娩数(里帰り含む)	184 人

聖隷淡路病院への淡路市の支援

夢舞台への移転開設・他、淡路市による支援総額

年度(平成)	使 途	金 額 (万円)
23	用地取得費(無償貸与)	8,080
24~25	建設補助	7 億 5000
24~25	ふるさと融資利息分	8,482
29~31	公的病院支援事業補助金	1 億 888
合 計		10 億 2,450

戸田ゆうじ 9月定例議会一般質問

「聖隷淡路病院、分娩休止について」市長に問う

島内の分娩は洲本市、南あわじ市の民間医療機関が出産の受け入れを中止。当病院と淡路医療センターの 2 ヶ所になっていた。(淡路医療センターは、当時里帰り出産の受け入れを休止していた。今年 10 月から再開)
淡路市内で出産できるということが、市のアピールポイントであったが...

戸田：分娩休止は若い家族に及ぼす影響が大きく、少子化対策も骨抜きになりかねない重大な件であるが、当病院から市へどのように報告・相談があったのか？

市長：民間病院である聖隷淡路病院から直接の働きかけはなかった。

[裏面につづく](#)

市長： 昨年の夏頃に、現在分娩担当の医師が退職の意向を持っていると事務的に連絡があった。以上である。

戸田： 新設時に多額の補助をしているが、当時分娩事業設置の確約はあったのか？

市長： 移転新築当時、分娩事業の計画はなかったがダメモトでお願いした。特段の約束はなかった。

以上が議会での質問と答弁である。

しかし、新設公募時、聖隷が産婦人科を新設するという提案を行っていた事実が後に判明。市から補助金拠出条件の一つが産科新設ではなかったのか？

市長の答弁については・・・

重要な案件の報告にも関わらず、一民間病院の事務的な連絡と切り捨て、誠意のない答弁である。

その後、分娩再開へ向けて大学病院へ医師の確保について依頼等働きかけは行ったと答えているが、確保は困難であったようだ。結果、「分娩、妊婦検診休止」の公表となり、再開の見込みがない厳しい現状となった。

少子高齢化が進行する昨今、特に人口減少が厳しい当市にとって、**市内で出産ができるメリットをもう一度考える必要があるのではないだろうか？**

また、**再開に向け、努力・行動を続けていくべきである**と考える。

私には、現状を打開する一つの案があります！

内容は後日発表します。



「暴力団事務所売却意向」の報道について

8月28日付、神戸新聞において報道された「神戸山口組旧事務所売却意向」の記事につき質問した。

戸田： 「淡路市は購入の可否を検討している」と記事にあるが、どうなのか？

市長： その様なことはない

この件の真実は、暴力団から警察に売却意向(市へ)の相談があり、内々に警察から市長に話があった…ということである。

つまり、**市長の答弁は真実とは異なっている。**

この件の答弁も、先の聖隷淡路病院の分娩休止の答弁と同じく、**不誠実で冷淡なものであった。**

.....雑感.....

私事で恐縮ではありますが、3年半前、私の娘も聖隷淡路病院で里帰り出産させていただきました。

当時の担当医をはじめ、助産師の方々、スタッフの皆さんのあたたかき確かな対応に、今も深く感謝しています。

その思い入れもあり、今回の分娩休止は残念な思いがあります。

医師不足により、医師の労働環境も厳しい上、産科は赤字続きであったと聞いています。課題は多いことでしょう。

しかし、若い方が妊娠・出産を考える時、自身の住む地元、あるいは実家のある地域で出産できる…ということは、われわれが思う以上に大きな安心と支えになるのではないのでしょうか？

いずれにしても、われわれが未来へ繋ぐのは「命」です。

未来を託すのも「命」です。

数字で割り切ることなく、尊い生命の誕生する場を提供することは、行政の大きな使命でもある…と私は考えています。

戸田ゆうじ

が考える「新しい淡路市」 その5

もっと良くなる淡路市！

市民に寄り添い、挑戦する行政

- 少子高齢化が進む中、人口増に挑戦
- 子育て世代支援の充実と環境整備

毎週、各地域で挨拶運動実施中！

本チラシ、議会、行政、地域の案件などについてご意見、ご相談は、

戸田ゆうじ mail:cosmo.007@i.softbank.jp または fax:0799-72-3282

までご連絡下さい。